新聞　第3種郵便物認可

「東北お遍路」で語り継ぐ震災

県内には26カ所　4月にガイドブック発行

福島でシンポ

千年先まで震災の記憶を語り継ぐため、太平洋側の東北4県で被災した「巡礼地」を選び、全国の人々に訪ねてもらおうという「東北お遍路プロジェクト」。その役割を話し合うシンポジウムが19日、福島県新地町であり、「考える旅」としてお遍路の意義を強調する意見も上がった。

プロジェクトは、福島県相馬市の新妻香織さん(56)ら有志が「被災地が忘れ去られてしまうことがないようにするには」と知恵を絞り、震災の半年後から一般社団法人を立ち上げて取り組んできた。

四国八十八カ所の霊場を巡礼する「お遍路さん」にヒントを得て、全国の人々にいくつもの被災地を巡ってもらおうという計画だ。

そのため、「千年残した物語性がある」「人々の命をつないだ場所」などの基準を設けて場所を公募。候補にあがった4県の約130カ所を同法人のメンバーらが現地調査し、自治体の首長とも相談しながら、これまで63カ所を選定してきた。

このうち、宮城県内は26カ所。津波で竜のような形に残った松「龍の松」(気仙沼市)や、「慶長の大津波で手前で津波が二つに分かれて引いていった」という言い伝えが残る「浪分神社」(仙台市)などだ。

「被災地を結ぶ新しい道づくり」と題して法人が主催した19日のシンポジウムでは四国遍路の研究者が講演したほか、プロジェクトに協力する福島県南相馬市のクリーニング店経営、高橋美加子さんや仙台市在住の民俗研究家、結城登美雄さんらが登壇し、東北お遍路の役割を話し合った。

高橋さんは「何を伝えるべきなのか、まだ言葉は見つからない。だからこそお遍路でその場所を訪れてもらって、言葉にならないことを感じてもらいたい」と訴えた。

結城さんは「旅が遊んだり食べたりという単なる観光から、『歩く、見る、聞く、考える』というものに変わってきている。お遍路はそんな旅の一つになるのでは」と、その意義を強調した。

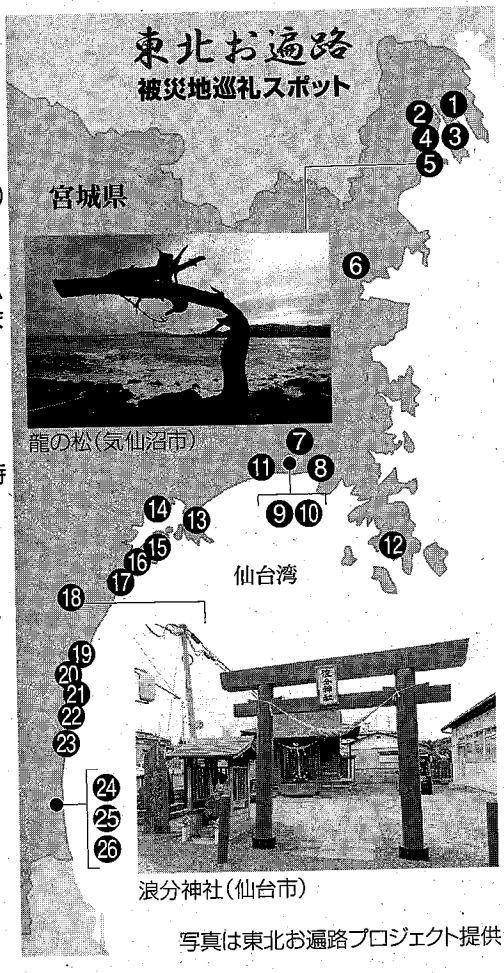
主催者側からは、今後数年かけて巡礼地を100カ所ほどに増やす考えが示された。さらに、巡礼地の特徴をよく知ってもらうため、おとこし作製したマップに続いて、今年4月にガイドブックを新たに発行することも発表された。

新妻さんによると、身近にある巡礼地をよく知り、守り育てる気持ちを持ってもらいたいという考えから、執筆はそれぞれの地元の人に依頼した。

震災時の記録や歴史、近辺の散歩コース、関連書籍などを盛り込み、第一弾は20カ所分を作製。被災地の状況が時間とともに変化することも考え、更新した内容に差し替えられるバインダー方式にする。

ガイドブックや候補地の情報などは同法人(022・264・7890)へ。

(船崎桜)



❶早馬神社
❷紫神社
❸みちびき地蔵
❹尾崎大明神
❺地福寺、岩井崎(龍の松、秀ノ山雷五郎像)
❻上野山八幡宮 波来
❼石巻ハリストス正教会
❽慶長使節船ミュージアム
❾門脇町を見守るお地蔵さま(西光寺)
❿日和山公園
⓫普誓寺
⓬十八成浜白山神社
⓭貞観地震の千年石碑と観音寺
⓮瑞巌寺、観瀾亭
⓯同性寺
⓰末の松山(宝国寺)
⓱蒲生干潟
⓲浪分神社
⓳閖上漁港と日和山
⓴仙台空港
㉑千年希望の丘
㉒貞山運河
㉓わたり温泉鳥の海
㉔戸花山
㉕山元町立中浜小学校と千年塔
㉖山元町磯崎山公園(唐船番所跡)

写真は東北お遍路プロジェクト提供

「観光から考える旅に」意義語る

東北お遍路の役割などが話し合われたシンポジウム=福島県新地町